公益社団法人
新宿区シルバー人材センター
（東京都）

手作りマスクを区に寄贈
多くの保育園で活用

吉住健一新宿区長（写真右）へマスクを寄贈する保高健彦会長

新宿区ＳＣでは、3月からセンター事業や会議、地域班活動などを自粛。さらに、洋服のリフォームや、会員の趣味・特技を生かした手作り作品を展示・販売するショップなどの独自事業も休止しました。

就業が再開されるまでの期間を活用して、独自事業に携わる会員たちがさらし布を利用したマスクの製作を進めました。

製作した800枚のマスクは、保高健彦会長から吉住健一新宿区長へ寄贈し、多くの保育園で活用されています。

創刊400号
特別企画

一役買います

女性会員の一部から、マスク不足を懸念して製作の申し出があり、3月10日から製作を行って、同月16日から販売を始めました。

8人の会員が自宅で子ども用から大人用まで趣向を凝らしたデザインのマスクを製作し、毎日事務所に届けています。口コミで市民の間に広がり、750枚余りを販売しました（6月9日現在）。利用者からは、「かわいい」「使いやすい」と好評です。

当初は期間限定と考えていましたが、要望がある限り応えていきたいと思います。

公益社団法人
南砺市シルバー人材センター
（富山県）

かわいく使いやすいマスク
口コミで市民に人気

南砺市ＳＣでは、8人の女性会員が趣向を凝らしたマスクを製作。サイズやデザインもバラエティー豊か

新型コロナウイルスの1日も早い終息を願って

マスク不足に

新型コロナウイルスの
感染拡大に伴う
全国的なマスク不足に
対応しようと、
シルバー人材センター会員が
奮起しました。
いち早くマスクの製作に着手し、
寄贈や販売を行った
4センターを紹介します。

公益社団法人 飯田広域シルバー人材センター（長野県）

マスクのプレゼントと共に作り方なども利用者に伝授

「つどいの広場ゆるり飯沼」の再開を願って、利用者へのプレゼントとして「さらしマスク」を手作り

飯田広域ＳＣが運営する地域子育て支援事業「つどいの広場ゆるり飯沼」では、3月25日～4月4日に、新品のさらし布を使った大人用マスク50枚をスタッフ9人で製作しました。

「つどいの広場ゆるり飯沼」は、6月1日から電話予約に限り、利用を再開しました。利用者には会員手作りのマスクをプレゼントして役立てていただくことに加えて、さらし布や腹帯を熱湯消毒してリユースする方法、誰でも簡単にできるマスクの作り方を教えながら、再会の喜びを分かち合いました。

公益社団法人 刈谷市シルバー人材センター（愛知県）

“モノ作り”女性会員集団が多種多様なマスクを製作

刈谷市ＳＣのマスク製作は、地元ケーブルテレビ局の取材を受けた

マスクを求めてドラッグストアに並ぶ人々を見ながら、井野治仲会長と女性会のメンバーが、布製品を手作りする“モノ作り”女性会員集団「手仕事屋さくら」のメンバーなら、マスクを作って世の中の役に立ち、かつセンターの活性化にもつながるのでは、と考えました。

この話を聞いた女性会と手仕事屋さくらのメンバー7人は3月から腕によりをかけて製作を行い、約700枚のマスクが完成。子ども用、大人用、形によって価格は異なりますが、6月19日現在で約680枚を販売しました。